

山田京子の 議会報告

平成25年第3回定例会
9月6日～10月3日



2012年度決算はどうだったか

一般会計決算は、12億円の黒字

となりました。といっても、市債管理基金（借金を返すための貯金）から借りているお金のうち20億円返す予定を、5億円だけにして、さらに、退職金を払うために、退職手当債（これも借金）を発行して、ようやく黒字としたものでした。ですから実質は赤字。

また、特別会計の国民健康保険事業は単年度では黒字だったものの、累積赤字116億円を翌年度分から前借り（繰り上げ充用）して処理しました。国保の経営が苦しいのはこの自治体もそうですが、千葉市は一般会計が苦しいため、国保に少ししか繰り入れできないことが響いています。その他の特別会計、企業会計（収益的収支）については、いずれも黒字となっています。

今議会は、2012年度の決算審査を行いました。厳しいやり繰りで、収入不足をしのいだものの、政令市中、財政の健全化がまだワーストです。しかし特別枠を設けて防災対策、子育て支援や地域経済活性化などに重点を置いたこと、借金総額が減る傾向にあり、少しずつ好転の兆しが見えることから決算を認定としました。

一般議案では、市民活動支援センター、アイスクリーム場、保育所、ユースホステルなど公共施設の今後に関する重たい議案もありましたが、議案質疑などで充分検討し、すべて賛成としました。

■今後の見通しは？

ここ数年の財政健全化の取り組みから、今後の見通しでは、実質公債費比率（自治体の自由になる財源に占める借金返済の割合）が25%以上（イエローカード状態）借金が制限される）となることは回避されました。昨年度よりも少しずつ好転の兆しが数値の上で表れています。

しかし、高齢化が進むことや、所得の格差が広がることにより、生活保護が増えます。あれもこれも欲しいとは言えなくなり、税金をどこに集中して使わなければならない時代です。



市民一人あたりの千葉市の借金総額
平成24年度決算

あんしんケアセンターは 増えたけれど……

あんしんケアセンター（高齢者や介護の相談窓口）が昨年度倍増したことから、市に評価を聞くと「担当地域が狭くなったため、きめ細かに活動できる」「身近で専門的な相談窓口として機能している」、一方、「ケアマネ支援や虐待対応などノウハウの蓄積の違いによりセンター間で差が生じている」との答弁でした。

市民ネットワークちばが行った聞き取りからは「認知症の親+病気で働けない子→生活困窮といった困難ケースの増加」「成年後見制度が必要だが手続きが進まない」「区の福祉関係部署との関係改善が必要」といった課題が見えてきました。

あんしんケアセンターからの問いかけに十分応じられるような、区の職員体制の充実を求めました。

深刻になる前にぜひ相談を 「あんしんケアセンター」



若葉区の4つのあんしんケアセンター（大宮台・桜木・千城台・みつわ台）で聞きました。
・センター主催の認知症サポーター養成講座は、地域の人に認知症の正しい知識を持ってもらい、理解不足から起こるトラブルを防止するため役立っている。

・徘徊者のケア等、センターと地域の連携で支える例がある一方、地域に情報をオープンにしない家族もいる。通報を受け行ってみると孤独死を発見したことも。家族間や地域での人間関係の希薄化を感じる。民政委員や病院のソーシャルワーカー等とも連携し、顔の見える関係を強化したい。

・民間事業者が運営しているため、個人情報に直接アクセスできない。市直営のセンターが区に1か所でもあれば対応も早く、状況も把握しやすい。

せっかくできた相談窓口をもっとPRし、活用することで、年をとっても安心して住める若葉区になると感じました。（岩崎）

代表質疑から

なぜ早い？ 市職員の人事異動

市の職員には異動が付きものとわかってはいるものの、最近では1年で動いてしまう職員もおり、専門性は高められるのか、仕事の継続性は大丈夫なのか、市民との信頼関係が断ち切られる心配はないのかと感じていました。そこで、人事異動の考え方を聞きました。

答弁では、一般職員は概ね3年から4年を目安に、能力、知識、適性を総合的に判断し、本人の意向も参考に異動しているとのこと。若手職員については『ジョブローテーション指針』（必要な能力を身につけ、適性を見出すため、市民対応部門や内部事務部門等、性質の異なる業務を二つ以上経験できるように人事異動の原則：H23年度に策定）に基づき異動しているとのこと。

管理職については、現在定年での退職が多いため、ポスト補充の必要から異動の年数が短く1年で異動となることもあるとのこと。市民との信頼関係や業務の継続性が保たれるよう、今後も十分配慮するとの答弁でした。

複数分野の経験が生きることは想像できますが、職員には専門性の高さが求められています。少なくとも1年で異動ということのないような人事体制作りが必要です。

千葉市のユースホステルが終了します

昭和の森にある、千葉市ユースホステル廃止の議案が出されました。安い料金で、客同士の交流の場もあるユースホステルは、昭和60年代には全国的に多くの若者をひきつけました。しかし近年利用が減り、青少年団体、スポーツ団体の合宿が中心で、個人や小グループの利用が減り、今後の維持管理が大きな負担となっています。併設のキャンプ場も廃止することになり、引き受ける事業者を募集中です。

民間業者が、新たな使い道を提案し、魅力ある施設に生まれ変わることを願うものです。

